

# 復活の日

(エゼキエル書 36 章 25-28 マタイ福音書 28 章 1-10 節)

2021 年 4 月 5 日イースター主日礼拝  
日本基督教団仙川教会  
大串肇牧師

主の復活を覚えるイースターに兄弟姉妹と共に礼拝を守ることが出来ますことは大きな喜びです。

さて、それは安息日が終わった、週の初め日、すなわち日曜日の明け方でした。「マグダラのマリアともう一人のマリア」たちがイエスの墓を見に行きました。全く予期せぬことに、「大きな地震が起こりました。それはちょうどイエスが十字架について息を引き取られたときと同じような光景でした。しかしそれは全く新しい出来事の徴でありました。

「主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座った」のです。天使は「稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった」と言われています。武装したローマの兵隊たちでさえ、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった、とされています。

28:5 天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、28:6 あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。

天使を通して語れた復活のメッセージは「恐れることはない」という言葉です。これは不安におびえ、絶望していた女性たちにとりましては深い慰めであったと思います。しかしそれだけではない。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」というイエスの最期の祈りに、神は復活という勝利をもってお応えになったのです。約束は成就され、神のご計画は果たされたのです。そのことが今や明らかになったのです。主イエス・キリストの死はわたしたちを罪から解放するための犠牲の死であり、贖いであったのです。

「恐れることはない」。その言葉は単なる気休めでも、何の根拠もない無責任な言葉とは違います。罪からの解放と永遠の命。ほんとうにわたしたちが安心できる、神の救いの真実なのです。十字架に付かれたお方が、復活した、罪と死に完全に勝利されたのです。

28:7 それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」

ここで天使は女性たちにこの復活の出来事を弟子たちに伝えるように命じます。つまり、復活は復活の出来事で終わりではない。始まりなのだということです。

28:8 婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。

女性たちは「**恐れながらも大いに喜び**」ながら、急いで立ち去ったとあります。復活のメッセージを聞いたにも関わらず、彼女たちはまだ半信半疑だった、恐れています。それも信仰の現実です。しかしながら、その恐れよりも大きな喜びがあったのです。

皆さん、わたしたちはとても大きな試練に直面しています。恐れや不安もあります。しかしそれでもなお、その大きな悲しみや苦しみを超えるような喜びを主イエス・キリストはわたしたちに与えて下さったのです。死線を越えた永遠の命の道を主イエス・キリストは開いて下さったのです。

大事なことはその福音を証しすることです。女性たちは「**恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行**」きました。これが今朝わたしたち信仰共同体に示された生き様です。

恐らく、主イエスの墓に来るまでは彼女たちの足取りは重かったと思います。しかし今や復活の事実に出会って彼女たちは変わったのです。「**恐れながらも喜んで**」、「今度は他者にその大きな喜びを知らせるために走って行ったのです。これが新しい命なのです。彼女たちは逃げ去ったのではありません。**恐れながらも大いに喜び**つつ、主の福音を証してまいりたいと願います。ご一緒にお祈りいたしましょう。